

白浜レスキューネットワーク通信 1月号

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 3137-8

TEL&FAX0739-43-8981

<http://www.aikis.or.jp/~fujiyabu/nrsv1.htm>

e-mail yabiumi@yahoo.co.jp

理事長 藤藪庸一

郵便振替 00920-6-85589 口座名：白浜レスキューネットワーク
 紀陽銀行白浜支店普通預金 589389 口座名：NPO特定非営利活動法人
 白浜レスキューネットワーク

自殺者救済活動

1月1日～1月31日

電話件数 98件

保護件数 1件(男性1人)

○6日、三段壁から電話があり、70代の男性を保護した。九州の出身で、数十年前に大阪に出てきた。過去に4度結婚と離婚を繰り返した。今まで親戚付き合いを避けてきたため、いざという時に頼れるところがどこにもないことに気が付いたという。仕事や人間関係で上手くいけなくなり、どうにでもなれと、死に場所を探して白浜まで来ていた。最後のお金でお酒を買い、死のうと思ったが、崖の上から海を見て、これじゃ低すぎて死ねないと思ったようだ。帰りの交通費もなく困り果てたところで、看板に目がとまり電話をかけたという。共同生活に加わり、やり直すことになった。

生活自立支援活動

1月1日～1月31日

滞在者数 14人(男性13人、女性3人)

自立1人(男性1人)

○7日、うつ病と診断されている50代の女性が、バスの無賃乗車をしたと警察から電話があった。散歩に出かけた時、遠くまで行きすぎて帰ってこられなくなってしまったからだという。連絡を受け、すぐにお金を払いにいったが、これで二度目だということだった。話をしてもうしないことを約束した。IQが一般の人の半分しかないと診断されており、どこまで理解できているのか見極めにくい。今後施設へ移ることを検討している。8日、田辺市の施設に見学に行き、21、22日と一泊体験に行った。

○数十年路上生活をしていた70代の男性が、

体調を崩し、数日起きてくることができなかった。これまで二度高熱を出して病院に連れて行ったことがあった。今回はそこまでひどくはなかったが、ぜーぜーと苦しそうな咳がしばらく続いた。症状が出た時だけでなく、継続的に医療を受けられるように整えていく必要が出てきた。

○まちなかキッチンで働いている30代の男性が、仕事中に何も言わず飛び出してしまった。すぐに落ち着き帰って来たが、こういうことが何度か続いている。毎日真面目に頑張っており、スキルアップしたいと前向きである一方、何を考えているかわからないと周りに思わせてしまう両面があり、時々自分の感情を治めきれずに爆発してしまう。言葉に出す努力をするように指導している。

○以前住んでいたアパートで火事を起こしてしまい保護されていた男性が、数か月共同生活に加わっていたが、アパートに移ることができた。今後も食事に通ってくることになった。

○13日、共同生活から自立し、老人ホームに入所していた70代の男性が亡くなった。数年前に大腸の病気を患いしばらく入院生活をしてきた。施設に移ってからも通院や入院をしていたが、最近では血圧があがりやすくなっていた。14日、白浜町の斎場で密葬した。お骨は教会の墓地に埋葬する。

○今月保護された70歳の男性は、笑顔も見え始め、共同生活にも慣れてきたようだ。毎日農作業の手伝いをしている。

○11月に保護された男性が、まちなかキッチンの皿洗いや副菜詰めに加わるようになった。積極的に動こう動こうという姿勢が伝わってくる。

○交通事故にあい、足首の骨を複雑骨折していた男性が退院することができた。3月に仕事復帰できるようにリハビリに励んでいる。週に3回コペルくんの手伝いに来てくれることになった。

○3年前に共同生活から自立した男性が自分の体重を支えられなくなり、背中の骨が折れてしまった。通院の送迎等支援していくことになった。

○30代の女性が、出ていきたいので、交通費を貸してほしいと話に来た。話を聞くと、ボランティアで手伝いに来る60代の女性との人間関係にむずかしさを覚えていた。話をするも、すぐに自分が出て行けば、来なければと極論に走ってしまう。話をする中で落ち着き、出ていく事は思いとどまった。礼儀に反しないことと指導している。

○2年半前に保護され、居酒屋で働いていた30代の男性が、来月実家に帰ることになり、皆の前でこの期間を振り返って話をした。今後は友人たちと飲食店を運営していく予定だ。期待しつつ応援していきたい。

自殺予防活動

・まちなかキッチン

店舗の販売に力をいれた。今まで10:30の時点で数種類の惣菜を店舗で販売していたが、時間の組み替えを行い、全種類の惣菜を販売できるようになった。また無駄をなくすため、営業時間を19時まで縮小した。

利益を生み出す場所であると同時に、職業訓練の場としても機能している。新しく一人皿洗いに加わり、皿洗いから副菜詰めにとできること、任されることの幅が広がっている。

病院付の保育所やグループホーム等施設での配食の注文が入り、継続して配達していく事になった。移動販売の場所も増え、売り上げも伸びてきている。

・フードバンク

○白浜町に住む生活保護を受けている女性か

ら相談を受け、お米やレトルト食品など物資の提供を行った。和歌山市の生命保険会社から食品の寄付を頂いた。

○12日、埼玉市議会から4名視察を受け入れた。

○20日、地域の生活困窮者対策会議に出席した。

・放課後クラブ「コペルくん」

今月から1年生の女の子1人と男の子が1人新しく通い始めた。近所で見かけては、気にかかっていた子たちだった。コペルくんに通っている同級生から紹介され、何もわからずやってきた。まず、コペルくんは宿題をすることだと、宿題を持ってくる約束をした。そして「椅子に靴で乗らない」と注意するところから始める。しかし、だんだんと時間がたつにつれて場所や人に慣れてきて適応していく。「帰ります」と気持ちよくあいさつしに来るようになる。

子どもたちが社会に適応していけるよう、ぶれずに関わっていきたい。

(写真下：1月の誕生日をお祝いした。)



・相談電話

6日、13日、20日、27日に行なった。

今月も1人の相談員が休まず電話相談にあたった。

今後の講演予定

2月10日 和歌山工業高校で講演

2月21日 上福岡講演

2月24日 相生市講演